



専門科シニアレジデントコース：放射線科・核医学科



国際医療センターとの合同研修になります。また3病院合同研修を開始します。

1. 放射線科の特徴、特色

埼玉医科大学放射線科は非常に守備範囲の広い画像診断が特徴です。それは1000床近い入院患者と1日数千人におよぶ外来患者のすべての画像診断を当科が担当しているためです。さらに隣の国際医療センター画像診断科とはPACS（画像参照、レポート作成システム）を共通運用しており、居ながらにして両病院の画像参照、診断レポートが作成可能で、実際、すでに画像診断業務を相互乗り入れしています。診療科としても両病院の協力体制で運営しているため、すべての分野の画像診断を、大学病院でも、国際医療センターでも行うことができます。この両病院での専修医研修を開始するとともに、川越の総合医療センターを含めた3病院合同研修を開始します。

もう一つの特色は、非常に質の高い研修が受けられる点です。国際医療センターを含めた当科スタッフはいずれも経験豊富な放射線科専門医であり、ほぼ全ての領域のトップインストラクターと毎日接するという、現在ではなかなか実現できない高レベルの研修環境となります。

2. 診療実績（大学病院、平成27年度）

MRIが1.4万件、CTが2.4万件、IVRが約1900件、核医学が約2700件

3. 診療科の体制（指導責任者、診療スタッフなど）

新津 守（診療部長、教授）1986年 筑波大卒

画像診断一般、MRI、骨軟部画像診断

日本医学放射線学会専門医、医学物理士

田中 淳司（副診療部長、教授、中央放射線部部長）1980年 弘前大卒

画像診断一般、IVR、位相コントラストX線撮影法、放射線被曝防護

日本医学放射線学会専門医、日本IVR学会専門医

市川 智章（国際医療C、教授）

腹部画像診断、

日本医学放射線学会専門医

内野 晃（国際医療C、教授）

神経画像診断、インターベンショナルラジオロジー

日本医学放射線学会専門医、日本IVR学会専門医

酒井 文和（国際医療C、教授）

胸部、頭頸部を中心とする画像診断

日本医学放射線学会放射線科専門医

岡田 吉隆（国際医療C、教授）

腹部画像診断

日本医学放射線学会専門医、日本消化器病学会専門医

久慈 一英（国際医療C、教授）1990年 金沢大卒 核医学全般

（SPECT/CT, PET/CT, 核医学治療）

日本核医学会専門医、日本医学放射線学会専門医、PET 核医学認定医

小澤 栄人 (准教授)

婦人科画像診断、骨髄画像診断

日本医学放射線学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医

瀬戸 陽 (講師) 核医学全般

日本核医学会専門医、日本医学放射線学会専門医、PET 核医学認定医

斎藤 尚子 (国際医療 C, 講師)

頭頸部画像診断

日本医学放射線学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医

中澤 賢 (国際医療 C, 講師)

インターベンショナルラジオロジー

日本医学放射線学会専門医、日本 IVR 学会専門医

井上 快児 (助教) 1998 年 信州大卒

画像診断一般 日本医学放射線学会専門医

大澤威一郎 (助教) 2007 年 弘前大卒

画像診断一般

4. プログラムの目的と特徴

国際医療センターとの合同研修になります。また 3 病院合同研修を開始します。

3 年間で放射線科全般の研修を行います。これには単純 X 線写真から X 線造影検査、超音波、CT、MRI、IVR および核医学の画像診断全般が含まれ、さらに放射線治療が追加されます。3 年間終了時に放射線科専門医資格を取得します。その後、核医学を含めた診断専門と放射線治療専門の 2 つの専修コースに分かれ、2 年の研修ののち、放射線科診断専門医の資格試験を目指すこととなります (チャート参照)

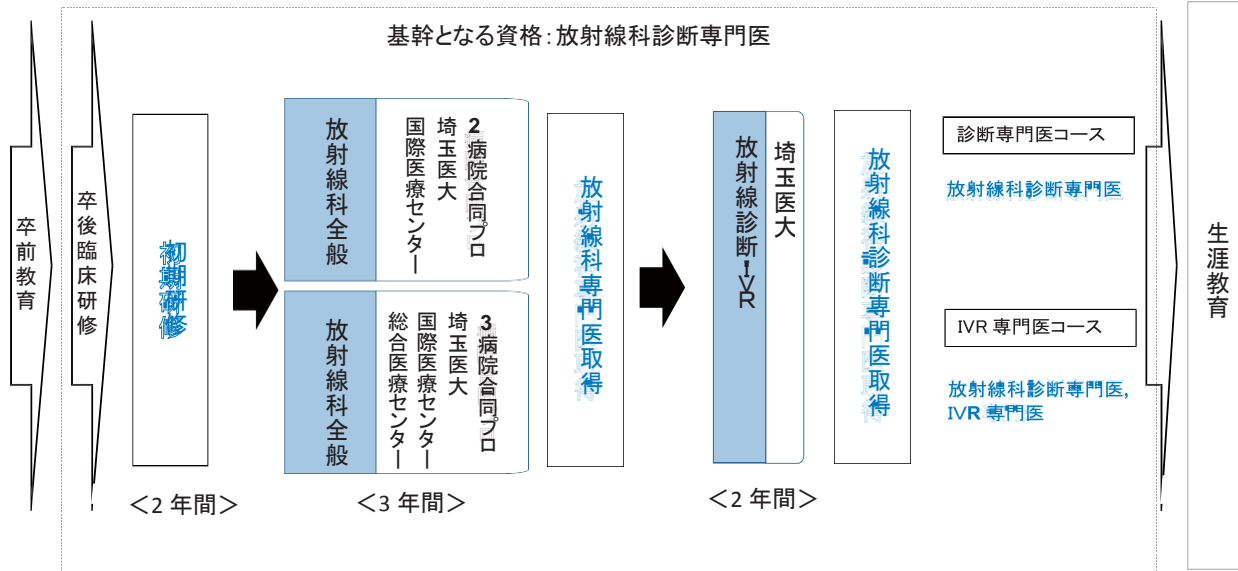
5. キャリアパス (取得可能な資格)

日本医学放射線学会放射線科専門医 (4 年目)

日本医学放射線学会放射線科診断専門医 (6 年目)

日本核医学会核医学専門医 (6 年目)

専門科シニアレジデントコース：放射線科



6. 連絡先（担当者名、アドレスなど）

TEL：049-276-1265（医局）

新津 守

E-mail: niitsu@saitama-med.ac.jp

井上 快児

E-mail: kaiji@saitama-med.ac.jp

当科の HP も参照下さい。 <http://www.rad-smu.jp/>

